

2025年度 法科大学院

第5期入学試験問題

4 時限

民事訴訟法・刑事訴訟法

(短答式・論述式)

試験時間合計 40 分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙は2種類あり、それぞれ受験番号および氏名の記入欄がありますので、監督の指示に従って正しく記入してください。
5. 必ず「民事訴訟法」の解答は「民事訴訟法」の解答用紙に、「刑事訴訟法」の解答は「刑事訴訟法」の解答用紙に、記入してください。また、必ず解答用紙の解答欄に一つずつ記入してください。解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 六法等の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいません。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民事訴訟法]

問1 訴訟能力に関するつぎの記述のうち、もっとも適切でないものを一つ選びなさい。

1. 訴訟能力の有無は、原則として行為能力を基準として決定される。
2. 人事訴訟においては、成年被後見人は、意思能力を有する限り、単独で有効な訴訟行為をすることができる。
3. 民法上、未成年者が独立して法律行為をすることができない場合に訴えを提起しようとするときは、法定代理人が訴えを提起しなければならない。
4. 行為能力を欠く者によってされた訴訟行為も一応は有効であり、一定の要件のものとで取り消し得るに過ぎない。

問2 確認の利益に関するつぎの記述のうち、もっとも適切なものを一つ選びなさい。

1. 確認の訴えの対象となるのは、権利又は法律関係であって、原則として事実の確認は許されないが、原告の法律上の地位の危険又は不安がもっぱら書面の真否にかかっている場合にそなえて、法律関係を証する書面の成立の真否を確定するための訴えを提起することが許される例外が定められている。
2. 確認の訴えの対象となるのは、現在の権利又は法律関係であって、過去の権利又は法律関係を確認の対象とすることはできないから、遺言無効確認訴訟には確認の利益が認められない。
3. 確認の訴えでは、自己の権利等の積極的な確認を求めるべきであるから、相手方の権利の不存在といった消極的な確認の訴えは許されない。
4. 確認の訴えでは、原告の権利又は原告と被告との間の法律関係に限られるべきであるから、抵当権設定登記のある不動産を買い受けた者が当該抵当権者を被告として、当該不動産の元の所有者が被告に対して被担保債務を負わないことの確認を求める訴えは許されない。

問3 債権者が民法423条に基づき債務者の権利を代位行使して提起する訴訟（以下「債権者代位訴訟」という。）に関するつぎの記述のうち、もっとも適切でないものを一つ選びなさい。

1. 債権者が債権者代位訴訟を提起する場合、債権者は、訴訟物たる権利義務について訴訟追行権が認められる。
2. 債権者代位権の行使要件を充たす場合、債権者代位権行使の事実が債務者に通知され、あるいは債務者が了知した時点で、債務者は被代位権利に関する処分権を失い、債権者が提起した債権者代位訴訟に共同訴訟参加することができない。
3. 債権者が債権者代位訴訟を提起したときは、遅滞なく、債務者に対し、訴訟告知をしなければならない。
4. 訴訟告知を受けた債務者が債権者代位訴訟に参加しなくても、債権者が受けた判決の効力は債務者に及ぶ。

問4 口頭弁論における公開主義に関するつぎの記述のうち、もっとも適切なものを一つ選びなさい。

1. 公開主義は、憲法82条1項の要請に基づくから、裁判官の全員一致で、公の秩序又は善良の風俗を害する虞があると決した場合であっても、非公開で口頭弁論を行うことができない。
2. 裁判所は、文書提出命令の申立てに係る文書が民事訴訟法220条4号イからニまでに掲げる文書のいずれかに該当するかどうかの判断をするため必要があると認めるときは、文書の所持者にその提示をさせることができるが、こうして提示された文書についても公開主義の要請がはたらくから、当事者が訴訟記録の閲覧を請求すれば、当該文書を閲覧することができる。
3. 訴訟記録の閲覧等にも公開主義の要請がはたらくから、訴訟記録中に当事者の私生活についての重大な秘密が記載されて、第三者が秘密記載部分の閲覧等を行うことにより、その当事者が社会生活を営むのに著しい支障を生ずるおそれがあることの疎明があった場合であっても、裁判所は、訴訟記録の当該秘密が記載された部分の閲覧等の請求をすることができる者を当事者に限ることができない。
4. 口頭弁論の公開の規定に違反したことは、絶対的上告理由に当たる。

問5 証拠保全に関するつぎの記述のうち、もっとも適切なものを一つ選びなさい。

1. 最初の口頭弁論の期日が指定された後でも、証拠保全による検証の申出をする場合は、受訴裁判所ではなく、検証物の所在地を管轄する地方裁判所又は簡易裁判所にしなければならない。
2. 裁判所は、訴えの提起後であっても、当事者からの申立てがなければ証拠保全の決定をすることができない。
3. 証拠保全の申立ては、相手方を指定することができない場合においても、することができる。この場合においては、裁判所は、相手方となるべき者のために特別代理人を選任することができる。
4. 証拠保全の手続において尋問をした証人について、当事者が口頭弁論における尋問の申出をしたときであっても、裁判所は、必要でないと認めるものは、尋問をする必要はない。

問6 判決に関するつぎの記述のうち、もっとも適切なものを一つ選びなさい。

1. 当事者双方が口頭弁論期日に出頭しない場合、裁判所は、審理の現状及び当事者の訴訟追行の状況を考慮して相当と認めるときは、終局判決をすることができる。
2. 中間確認の訴えの判決は、既判力を有しない。
3. 口頭弁論調書の記載から判明する場合には、判決書に口頭弁論の終結日を記載する必要はない。
4. 判決書の記載に誤記に類する明白な誤りがあっても、当事者からの申立てがない限り、裁判所は更正決定をすることができない。

問7 Xは、Yに対して500万円の貸金の返還を求めているが、Yは、この貸金返還債務は弁済済みであるとして、これに応じようとしない。Zは、YのXに対する貸金返還債務について連帯保証した者である。この設例に関するつぎの記述のうち、もっとも適切なものを一つ選びなさい。

1. 主債務と保証債務は別契約であるから、Xは、YとZを共同被告として訴えることができない。
2. XがまずYを被告として訴えを提起したが、敗訴した。次にZを被告として訴えを提起した。主債務者Yが既に勝訴しているので、XZ間の訴訟を審理する裁判所は、そのY勝訴判決の既判力により、Zを勝訴させなければならない。
3. XがZを被告として訴えた訴訟において、Yは、Zに補助参加することができる。
4. XがZを被告として訴えた訴訟において、ZがYに訴訟告知した場合でも、Yが訴訟告知に応じて補助参加しないと、XZ間の判決の効力がYに及ぶことはない。

問8 上訴に関するつぎの記述のうち、もっとも適切でないものを一つ選びなさい。

1. 原告に一部認容判決が送達された日の翌日に、被告にその判決が送達された場合には、控訴期間の満了日は被告のほうが原告より一日遅くなる。
2. 900万円の貸金返還請求のうち、200万円を認容する第一審判決に対して、原告のみが控訴したときは、棄却された700万円についてのみ確定遮断及び移審の効力が生じる。
3. 控訴の取下げは、控訴審の終局判決言渡後は許されない。
4. 上告裁判所は、口頭弁論を開かなくても上告を棄却することができる。

問9 実体法の規定に基づく法定代理人と訴訟委任に基づく代理人の意義、代理権の発生原因、資格及び代理権の範囲について、7行以内で説明しなさい。

[刑事訴訟法]

問1 捜査の基本原則に関する次の記述のうち、判例の立場を前提として、もっとも適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 刑事訴訟法は、「強制捜査（強制処分）法定主義」を定めている。
- 2 刑事訴訟法は、「任意捜査（任意処分）の原則」を定めている。
- 3 刑事訴訟法は、憲法の規定を受けて、強制捜査（強制処分）について「令状主義」を定めている。
- 4 強制捜査（強制処分）とは、物理的な実力ないしは強制力を用い、あるいは相手方に義務を負わせる処分をいう。
- 5 任意捜査（任意処分）であっても、無制約に認められるわけではなく、必要性、緊急性なども考慮した上、具体的状況のもとで相当と認められるものでなければならない。

問2 証拠の収集に関する次の記述のうち、判例の立場を前提として、もっとも適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 搜索とは、物の発見を目的として人の身体、物、または住居その他の場所について調べるものをいう。
- 2 差押えとは、物の占有を強制的に取得するものをいう。
- 3 検証とは、場所、物、人などについて、その存否、性質、状態、内容等を五官の作用で認識・保全するものをいう。
- 4 搜索・差押え・検証は、相手方の承諾が得られ、あるいは何人の承諾も必要としない場合は、任意捜査（任意処分）として行うことが可能である。
- 5 令状により搜索・差押え・検証を実施する際には、処分を受ける者に令状を示さなければならない、この令状の呈示は必ず搜索等の実施前に行わなければならない。

問3 逮捕に関する次の記述のうち、もっとも適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 刑事訴訟法は、通常逮捕（逮捕状による逮捕）、緊急逮捕及び現行犯逮捕の三種類を規定している。
- 2 通常逮捕は、検察官、検察事務官、司法警察職員のいずれもなし得るが、逮捕が重大な処分であることから、逮捕状の請求は検察官に限り行うことができる。
- 3 逮捕状は、請求により、数通を発することができる。
- 4 司法警察員や検察官が、被疑者を通常逮捕したときは、直ちに犯罪事実の要旨、弁護人を選任することができる旨を告げた上で、弁解の機会を与えなければならない。
- 5 司法警察員が、通常逮捕した被疑者につき留置の必要があると判断するときは、被疑者が拘束された時点から48時間以内に、書類及び証拠物とともに、被疑者を検察官に送致する手続をとらなければならない。

問4 公訴の提起（起訴）に関する次の記述のうち、判例の立場を前提として、もっとも適切でないものを一つ選びなさい

- 1 刑事訴訟法は、国家訴追主義、起訴独占主義及び起訴裁量（便宜）主義を定めている。
- 2 不当な不起訴の防止策として、検察審査会による審査、裁判所による付審判請求手続がある。
- 3 不当な起訴がなされた場合であっても、裁判所によって公訴権濫用として公訴が棄却されることはない。
- 4 公訴は、検察官の指定した被告人以外の者にその効力を及ぼさない。
- 5 刑事訴訟法は起訴状一本主義を定めるが、これは裁判所（裁判官）に予断を与えないための原則である。

問5 公判手続に関する次の記述につき、もっとも適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 裁判所は、被告人の請求があった場合には、充実した公判を行うために争点と証拠を整理する手続である公判前整理手続に付されなければならない。
- 2 冒頭手続は、人定質問、起訴状の朗読、黙秘権など諸権利の告知、被告人及び弁護人の陳述の順に行われる。
- 3 証拠調べの最初に検察官の冒頭陳述が行われる。
- 4 書証の取調べは、朗読または要旨の告知によって行う。
- 5 関連する複数の事件を分けて別の手続で行うのを「弁論の分離」といい、複数の事件を一つの手続にまとめて同時に審判することを「弁論の併合」という。

問6 自白に関する次の記述のうち、判例の立場を前提として、もっとも適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 自白とは、被告人の供述のうち自己の犯罪事実の全部または主要部分を認めるものをいう。
- 2 構成要件に該当する事実を認めながら心神喪失を主張する供述も、犯罪事実の主要部分を認めている以上、自白である。
- 3 刑事訴訟法第322条第1項の「不利益事実の承認」は自白と同義である。
- 4 任意性に疑いがある自白は証拠能力がなく、これを自白法則という。
- 5 被告人を有罪とするためには、自白以外の他の証拠が必要であり、これを補強法則という。

問7 伝聞証拠に関する次の記述のうち、判例の立場を前提として、もっとも適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 伝聞法則は、公判廷外の供述証拠について、証人としての宣誓、供述態度の観察、反対尋問による供述過程の吟味が欠けていることを理由として、原則として証拠能力を認めないとするものである。
- 2 刑事訴訟法は、捜査機関が作成した検証調書は、その作成者が公判期日において真正作成を供述したときに証拠能力を認めているが、この「検証」に実況見分は含まれない。
- 3 刑事訴訟法は、商業帳簿、航海日誌など業務の通常の過程において作成された書面について無条件に証拠能力を認めている。
- 4 刑事訴訟法は、伝聞証拠であっても、検察官及び被告人が証拠とすることに同意したものは、相当と認められる限り、証拠能力を認めている。
- 5 刑事訴訟法第328条の「証明力を争うための証拠」として証拠能力を認められるのは、自己矛盾供述に限られる。

問8 裁判に関する次の記述のうち、もっとも適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 裁判とは、裁判所または裁判官の意思表示を内容とする訴訟行為であり、その形式面から、判決・決定・命令の三種類に分けられる。
- 2 実体判決とは、犯罪の成否について検察官が主張する事実理由があるか否かの判断を示した判決であり、有罪判決と無罪判決とがある。
- 3 被告事件が裁判所の管轄に属しないとき、裁判所は管轄違いの判決を言い渡す。
- 4 確定判決を経たときや時効が完成したとき、裁判所は免訴の判決を言い渡す。
- 5 禁錮刑以上の刑に処する判決の宣告があつた場合でも、それが確定しない限り、保釈または勾留の執行の停止の効力は失われない。

問 9 違法収集証拠排除法則の意義、根拠及び要件を、7 行以内で説明しなさい。